



宮司 額田 照彦

宮司就任のご挨拶



御祭神数

当神社に御鎮祭申し上げております
御祭神は四万九千七百二十六柱です。

この度、小川前宮司の体調不良による退任に伴い、平成二十六年八月一日付けを以ちまして神社本庁より、愛媛縣護國神社宮司の重責を拝命致しました。靖國神社、護國神社をとりまく情勢がきわめてきびしい中、固より微力ではありますが、職員一丸となって、国の為英霊となられた方々の御加護のもと、御神威を畏み誠心誠意神明にご奉仕申し上げます、御神徳の発揚に努め、英霊が安らかにお鎮まり戴けるよう奉慰顕彰に努める所存でございます。

今後とも、御遺族・崇敬者の皆様方の格別の御指導御協力賜りますようお願い申し上げます。

さて、去る八月十五日午後一時より護國神社御本殿にて、第六十九回終戦記念日祭を、

ご遺族をはじめ関係各位多数ご参列の下、謹んで大東亜戦争で散華された英霊に、慰霊顕彰、報恩感謝、御霊の安鎮をご祈念申し上げます。

高齡化による御遺族の急激な減少、戦友会の解散が続く御参拝が減少していくなか、私たちには御祭神の「みこころ」を次世代に伝えてゆく責務があります。

現在、我が国においては、倫理道徳觀の著しい低下、教育の荒廃等により今日では「世界に誇れる道義の国日本」という言葉は死語になりつつあるなか、それぞれの立場で今成すべき事を再認識し、「道義の国日本」再生のために尽くす所存であります。

一昨年靖國神社で、九十歳になる英霊の妻になる方が「かくまでも醜き国になりたれ

ば捧げし人のただに惜しまる」という歌を詠まれたそうです。

国のため、また御家族を思い尊い命を捧げて散華された御祭神を思い、現在の国の姿を見た時のお気持ちを素直に詠まれた歌だと思います。

どうか御遺族の皆様方には、来年の大東亜戦争終結七十年にあたり、靖國神社、護國神社に参拝し、国民・県民一体となって英霊に慰霊と感謝の誠を捧げ、我が国のさらなる発展と世界の恒久平和を祈念いただければ幸いです。

また平成三十一年には当神社の御創立百二十年の節目の年を迎えます。

節目の年に向けて、参拝者増の計画、境内施設の整備充実等を進めつつ、今後の神社護持運営、また将来の神社の在り方について、今一度足下を見つめ直していきたいと思えます。

重ねて今後皆様方の、御理解、御支援を御願ひ申し上げ宮司就任に当たっての所信とさせていただきます。

教育の再生に向け、立ち上がろう

愛媛縣護國神社崇敬奉賛会

会長 中山 紘治郎



去る九月六日、「ふるさと愛媛の明日を拓く」をテーマに教育シンポジウムを開催した。愛媛県教育委員会はもとより数多くの教育関係機関と団体からご支援とご理解を賜り、教育関係者五百余名と市民合わせて六百五十余名が参加する盛大な集会となった。ひめぎんホール真珠の間は隅々まで満席である。参加者は加戸守行前愛媛県知事（安倍内閣の教育再生実行会議の有識者委員で、五次に渡る提言を中心となってまとめられた）の基調提案と、その後のパネルディスカッションに耳目をそばだて会場は熱気に満ち溢れた。教育再

生実行会議の提言を受けて、ふるさとの明日を託す児童生徒の教育を考えようと、みんな休日にもかかわらず参加したのである。



いま、教育の再生は国の重要な課題となっている。大人も子どもも社会全体が規範意識を喪失し、さまざまな問題が日常的に起こっていることはここに記すまでもない。戦後からもうすぐ七十年、日本の戦後の教育は正しかったのか。六・三・三年制はアメリカが当時、国内で大勢であった制度を占領下の日本に導入したものが、今日、当のアメリカで

は五・三・四年制と四・四・四年制が主流で、六・三・三年制はほとんどみられず、すっかり時代錯誤となっている。体格の著しい向上と子どもを取り巻く社会環境の激変が、小一プログラムに顕著なように、義務教育における学級経営を難しくしていることや、小学校から中学校への進学において急増する不登校など生徒指導上の諸問題である中一ギャップ等々、教育行政の形がい化もふくめ、いまだに占領統治から脱しきれないでいる教育制度を改革改善していくことは、国づくりの根幹にかかわる喫緊の課題である。



さらに問題なのは、占領統治の中で、日本の国のみならずと伝統文化の総体である日本人の美しい精神を教え伝える教育がないがしろにされてきたことだ。民主、平等、自由、人権などという、欧米の民族興亡の歴史過程で作られ出された国家統治の原理を一方向的に受け入れ、万世一系の皇室を戴く日本の国柄の素晴らしさを教育することはおろそかにされた。さらに加えて、いわゆる自虐史観に偏った教科書を使用し、日本と日本人を辱める教育がなされてきたことである。

シンポジウムでは道徳教育について、熱心な議論が交わされた。加戸前知事は修身の教科書で、洋の東西を問わず、先人のあり方生き方に多くのことを学んだ、と話された。戦前は週に六時間、今日の道徳教育は一時間である。文部省唱歌の復活とともに、日本の国柄を正しく教え、子どもたちの情操を豊かに育む教育を再生させなければならない。知育に偏重した教育では人は育たない。加戸前知事が紹介したアインシュタインの言葉、「学校で学んだことをすべて忘れてしまった後に、なお残っているもの、それが教育である」は、教育の本質を穿ったものである。教育再生の道標としたい。

富山丸戦没七十年を迎えて

愛媛県富山丸戦没者遺族会

会長 芳野勝三



私は、農家の二男として、昭和十八年七月に生まれながらにして、父の面影はまったく無く六歳の兄を頭に四人の末っ子として母に育てられた。

一歳になっていない私を連れて、丸亀駅まで行き父と会ったのが、母も最後になるとは思わなかったでしょう。

四国と九州から招集され鹿兒島港に集結、混成部隊が球部隊の名の下で沖繩へ急派される十三隻の輸送船団が一路沖繩へ向う兵士昭和十九年六月二十九日未明、奄美大島南方、徳之島東方近海上、亀津沖で『輸送船富山丸』

が三発の敵魚雷の命中で満載していた弾薬、ダイナマイト、ガソリンドラム缶一、五〇〇本に命中して撃沈され火の海となり浜辺に三、七〇四名(愛媛県四六六名)の兵士が犠牲となり尊い命を失った。

私も戦争の記憶すら知らない世代の一人でありながら遺児、もの心がついても父のいないのが普通に感じたが、母の苦勞をみるたびに父の尊大を肌でひしひしと感じる様になり、戦争で亡くした家族は悲惨と苦難との戦が始まり是から生きていかななくてはならない苦勞は言葉に表せない。母は早朝から夜遅くまで、身を粉にして生計を支える姿は想像を遥かに超えた戦いの連続の日々が今も脳裏に映る。

そんな中で、母は若くして(二十六歳)一瞬にして夫を失った母の青春は悪夢となってしまう思いを寄り添いながら慰霊の行動をする事で、心を癒し明日の生きる糧にして来たと思います。

私も、その様な母の姿を見るたびに心を痛めいつの間にか、父の墓前に手を合わせる様になり、墓前に行くたびに父を知らない私も何となく父がいる様な気持ちになり、話しかけて一緒にいるかのごとく心が温まる思いがした。

その心は、亡き徳之島に思いを募らせ続け悲願の慰霊塔建立と夫への思いを若き妻たちは、新たな生きがい慰霊祭とみだし、なごみの岬公園並びになごみの碑が、撃沈された海を望む丘に平和を願いつつ立つ。

富山丸遺族会全国連合会も高齢化が進み、今年の五十回の徳之島慰霊祭・古仁屋供養祭をもって解散になった事は、戦争の悲惨さと平和の声を題してきた灯がまた一つ消えた様な気がして心が痛む。私たち遺児、愛媛県富山丸遺族会会員も高齢になりましたが、母たちの意志と意思を引き継ぎ、毎年護國神社で行っている慰霊祭も今回で七十回目を、命日に当たる六月二十九日に終えました。今日まで続けられたのも妻の皆様方が、一心になって戦争の怖さと、悲しさを訴えた事に感謝したい。今でも心のよりどころとして夫・父に兄弟に合う事が出来るその思いが心の安らぎを感じると同時に、同じ船で亡くなった愛媛県者三七〇人余名の戦死者、全戦没者に対して英霊を敬う心を御霊に捧げ、忘れてないよ、これからも忘れることはないよと、メッセージを送り続け戦争の痛ましさを風化しない様に命の尊さを未来永劫伝えて行く事が大切だと思います。

戦争の敗北からわが国は大きな犠牲者を無駄にすることなく驚異的な復興を遂げ平和な営みが出来る様になった事に感謝したい。

反面、私たちは戦争犠牲者として、止まることなくその苦しい時代、悲しい時々を忘れる事が、戦争よりも怖い事かも知れない。

戦争の二文字が今過去の言葉となろうとしている昨今、私たちと同じ戦争遺児を二度と作らない様に戦争の悲惨な体験を後々まで語り、平和の尊さと家族愛と絆、子・孫へ伝承し、愛媛県富山丸遺族会戦没者慰霊祭に県内各地から集まり、護國神社のご協力により今後も引き続き慰霊祭を実施する事が、我々しか出来ない残された人生の中で、あたりまえの事をあたりまえに、我々が使命感を強く感じ、富山丸の御霊が安らかになることを願うと共に、平和な社会を後まで引き継ぐ慰霊祭になる様努めて参る所存であります。

終わりに、一歳になっていない私は、父の顔も知らない、父の声を聴いたこともない。ただ、若くして戦死した父の遺影を見るだけの自分。
せめて、一度でいいから父ちゃんと呼んでみたかった。父ちゃん……と。

『戦友団体等による慰霊祭』

平成二十六年

- 四月五日 愛媛シベリアを語る会
- 四月十三日 愛媛甲飛会
- 五月二十八日 殉職消防職団員

『遺族会等による慰霊祭』

平成二十六年

- 四月一日 西条市中川
- 四月十一日 西条市徳田
- 四月十四日 今治市大西町
- 四月十四日 今治市朝倉
- 四月十四日 今治市大三島町
- 四月十五日 西条市三芳
- 四月二十五日 今治市吉海町
- 四月二十八日 松山市正岡
- 五月十四日 四国中央市土居町長津
- 五月十九日 松山市戦没者遺児有志の会
- 五月二十三日 今治市遺族会女性部
- 五月二十六日 西予市野村町野村地区
- 六月十八日 今治市宮窪町
- 六月二十九日 富山丸
- 九月二十五日 愛南町遺族会一本松支部

〔奉納者並びに寄贈図書〕

一、字画の理

- 神奈川県小田原市 片桐 恭 一様
- 一、皇學館大学研究開発推進センター神道研究所報 第八十五号
- 皇學館大学研究開発推進センター神道研究所報 第八十六号
- 三重県伊勢市
- 皇學館大学研究開発推進センター

神道研究所様

一、天に誓って「南京大虐殺」はあったのか

- DVD 東條英樹の霊言(抜粋)
- 本田勝一の守護霊(抜粋)
- 古館一郎 vs 矢内筆勝
- 愛媛シールド工業(株)

三宅 正 信様

一、これだけは伝えたい武士道のこころ

さいたま市南区白幡 (株) 普遊 舎様

〈永代祭祀料基金奉納者御芳名〉

平成二十六年 三月

- 一、四万円也 西予市宇和町 片山 京子様
- 全 四月
- 一、五万円也 松山市南斎院町 藤井田昭義様
- 一、六万円也 今治市吉海町 村上 律子様
- 全 五月
- 一、貳万壱千円也 今治市菊間町 渡部 昭二様

遺族会代表献供奉仕者

平成二十六年(四月)春季慰霊大祭奉仕者 (敬称略)

- | | | |
|----------------------------|---------|---------|
| 女性部 | 西条市福武甲 | 長谷川 宇佐美 |
| 遺児 | 西条市飯岡 | 妻鳥 清孝 |
| 献茶菓奉仕者(茶道裏千家淡交会松山支部) | | |
| 井上宗扶社中 | 松山市持田町 | 袋瀬 有紀 |
| 金田宗幸社中 | 松山市萱町 | 黒田 美貴子 |
| 献花奉仕者(愛媛県華道会) | | |
| 聴 春 流 | 松山市一番町 | 三好 優紀 |
| 聴 春 流 | 松山市一番町 | 今 西 沙里 |
| 敬神婦人会代表献供奉仕者(愛媛縣護國神社敬神婦人会) | | |
| 松山市敬神婦人会 | 松山市枝松 | 原田 富美子 |
| 東温市敬神婦人会 | 東温市川ノ内甲 | 近藤 節子 |
| 献吟奉仕者(愛媛県吟詠剣詩舞総連盟) | | |
| 九日(霊齋奉安祭・宵宮祭) | | |
| 清吟堂吟友会 | | 岡 麗早 |
| 清吟堂吟友会 | | 城下 麗史 |
| 清吟堂吟友会 | | 岡 清孝 |
| 尺八献奉者 | | 坂本 清堅 |
| 十日(大祭) | | |
| 清吟堂吟友会 | | 大西 清山 |
| 清吟堂吟友会 | | 八束 麗爽 |
| 清吟堂吟友会 | 理事長 | 宮内 清興 |
| 尺八献奉者 | | 元岡 清専 |
| 清吟堂吟友会 | | |
| 献誦奉仕者(愛媛縣護國神社献誦会) | | |
| 九日(霊齋奉安祭・宵宮祭) | | |
| 「献誦」 | | |
| 武智秀夫以下有志一同 | | |

正式参拜

☆平成二十六年四月二十五日
愛媛銀行総合職新人研修
計二十七名

☆平成二十六年五月十二日
愛媛県遺族会
会長 関谷 勝嗣様
計二十名

☆平成二十六年五月二十一日
フィリピンルソンの会
会長 宮島 伸明様
計二十名



☆平成二十六年五月二十七日

愛媛県遺族会
会長 関谷 勝嗣様
計二十名

☆平成二十六年六月九日
オペラ歌手 鶴澤 美枝子様
計三名



☆平成二十六年六月十九日
青雲の会
塾長 山下 雅之様
計二十五名

☆平成二十六年七月九日

黒住教青年教師会
会長 松長 和様
計九名



☆平成二十六年七月九日
参議院議員
宇都 隆史様
計三名

☆平成二十六年七月十日
英霊にこたえる会愛媛県本部
会長 佐伯 要様
計三十名

☆平成二十六年八月五日

靖國神社
禰宜 坂 明夫様
☆平成二十六年八月十五日
伊豫豆比古命神社
権宮司 長曾我部 昭一郎様
計五名



☆平成二十六年八月十九日
まつやま山頭火俱樂部
理事長 熊野 伸二様
計四名

☆平成二十六年九月八日
愛媛県神社庁松山支部
支部長 渡部 定詔様
計十八名